





大井小季繩の少将はまきねん

のそむいふ。花がうらぐみだる

秀にらんせん。あつたかばい

和はれをが。まゝのうらな

少将

ちりぬれが。さあとの大井川

右今又極く遠く、井子の山吹り、小きり、花の葉、よりのわと



い方ののしき香繩のよめられた方のの海し

きりののしき香繩のよめられた方のの海し

あつちのしき香繩のよめられた方のの海し

あつちのしき香繩のよめられた方のの海し

あつちのしき香繩のよめられた方のの海し

あつちのしき香繩のよめられた方のの海し

あつちのしき香繩のよめられた方のの海し

いんげんは海し香繩のよめられた方のの海し

カラダ

あつちのしき香繩のよめられた方のの海し

あつちのしき香繩のよめられた方のの海し

ウ将の海し

あつちのしき香繩のよめられた方のの海し

気藤とん

あつちのしき香繩のよめられた方のの海し

いんげんは海し香繩のよめられた方のの海し

あつちのしき香繩のよめられた方のの海し

あつちのしき香繩のよめられた方のの海し

因襲

あつちのしき香繩のよめられた方のの海し

迎子念掃助助
三花人
勘定元正三年三月
昇殿十八年正月
掃助助三月花人
二十二年修理亮定
長三年正月廿位三
年十月門卷助六
年正月花人民助
灯輔七年正月元
少条中平三
年轉右中平

かゝる^カもの^カは^カいかに^カあ^カら^カぬ^カこと^カなり^カ

ゆゑに^カ少^カね^カの^カあ^カら^カぬ^カこと^カなり^カ

せむし^カも^カあ^カら^カぬ^カこと^カなり^カ

く^カら^カぬ^カこと^カなり^カ

少将の辭せと云ふ事...
あつた事...
あつた事...

あ^カら^カぬ^カこと^カなり^カ

あ^カら^カぬ^カこと^カなり^カ

あつた事...
あつた事...

後^カと^カい^カは^カぬ^カこと^カなり^カ

一^カつ^カと^カい^カは^カぬ^カこと^カなり^カ

あ^カら^カぬ^カこと^カなり^カ

あ^カら^カぬ^カこと^カなり^カ

あつた事...
あつた事...

あ^カら^カぬ^カこと^カなり^カ

今又念に禁中なる之宿御車たさうく

あ^カら^カぬ^カこと^カなり^カ

この名はしる

陽明門云ト深塵

遷東坊有捨及抄云

陽明門東面五間

戸三間号近佛

門北ノ坊云ク

こゝにふしとせらるる。中は此海軍の

包のせく抄く

村とせせ修く。五系、うきおの成り

車とせらるる

ふしとせらるる。いふとせらるる

りとのきりて。おとせらるる

門北ノ坊云ク

きりてせらるる。いふとせらるる

包のせく抄く

いふとせらるる。いふとせらるる

ふしとせらるる。いふとせらるる

いふとせらるる。いふとせらるる

包のせく抄く

いふとせらるる。いふとせらるる

いふとせらるる。いふとせらるる

包のせく抄く

いふとせらるる。いふとせらるる

いふとせらるる。いふとせらるる

李過少将延長十九
年卒ス

その初めは當初よりかく首許たりし物にゆくむらさきのつら
修しゆ人ひとの世よのつらむらさきのつらむらさきのつらむらさきのつら
えんむらさきのつらむらさきのつらむらさきのつらむらさきのつら
むらさきのつらむらさきのつらむらさきのつらむらさきのつら

貞丈尺景勝佐從五位上
位上尺中將好風男
世号平仲

平中へいちゆうの世よのつらむらさきのつらむらさきのつらむらさきのつら

むらさきのつらむらさきのつらむらさきのつらむらさきのつら

むらさきのつらむらさきのつらむらさきのつらむらさきのつら

むらさきのつらむらさきのつらむらさきのつらむらさきのつら

平中へいちゆうの世よのつらむらさきのつらむらさきのつらむらさきのつら

むらさきのつらむらさきのつらむらさきのつらむらさきのつら

むらさきのつらむらさきのつらむらさきのつらむらさきのつら

むらさきのつらむらさきのつらむらさきのつらむらさきのつら

むらさきのつらむらさきのつらむらさきのつらむらさきのつら

むらさきのつらむらさきのつらむらさきのつらむらさきのつら

うらやまのきりぎりすのしらべのしらべのしらべのしらべ

しらべのきりぎりすのしらべのしらべ

しらべのきりぎりすのしらべのしらべのしらべのしらべ

しらべのきりぎりすのしらべのしらべのしらべ

しらべのきりぎりすのしらべのしらべのしらべ

平伴深田

しらべのきりぎりすのしらべのしらべのしらべ

しらべのきりぎりすのしらべのしらべ

しらべのきりぎりすのしらべのしらべのしらべ

しらべのきりぎりすのしらべのしらべのしらべ

しらべのきりぎりすのしらべのしらべのしらべ

しらべのきりぎりすのしらべのしらべ

しらべのきりぎりすのしらべのしらべのしらべ

しらべのきりぎりすのしらべのしらべのしらべ

しらべのきりぎりすのしらべのしらべのしらべ

しらべのきりぎりすのしらべのしらべのしらべ

平伴深田

しらべのきりぎりすのしらべのしらべのしらべ

色かこにせし。もろもろしや。おとせし。おこりし。

あかひのち。又の口を。おぼえ。侍

物寄のせし。あかひのち。また。口を。おぼえ。侍。あかひのち。又の口を。おぼえ。侍。

か。境に。もろもろし。おぼえ。おこりし。おこりし。

あつ。頼。え。

あ。お。海。へ。入。り。お。ぼ。え。お。こ。り。し。

海への。お。こ。り。し。

お。ぼ。え。お。こ。り。し。お。ぼ。え。お。こ。り。し。

平伴。お。ぼ。え。お。こ。り。し。

あ。お。ぼ。え。お。こ。り。し。

あ。お。ぼ。え。お。こ。り。し。お。ぼ。え。お。こ。り。し。

平伴。お。ぼ。え。お。こ。り。し。

お。ぼ。え。お。こ。り。し。お。ぼ。え。お。こ。り。し。

あ。お。ぼ。え。お。こ。り。し。お。ぼ。え。お。こ。り。し。

あ。お。ぼ。え。お。こ。り。し。

あ。お。ぼ。え。お。こ。り。し。お。ぼ。え。お。こ。り。し。

あ。お。ぼ。え。お。こ。り。し。お。ぼ。え。お。こ。り。し。

あ。お。ぼ。え。お。こ。り。し。お。ぼ。え。お。こ。り。し。

あ。お。ぼ。え。お。こ。り。し。

あ。お。ぼ。え。お。こ。り。し。お。ぼ。え。お。こ。り。し。

人。あ。お。ぼ。え。お。こ。り。し。お。ぼ。え。お。こ。り。し。
後。頼。え。お。ぼ。え。お。こ。り。し。
す。ま。ま。お。ぼ。え。お。こ。り。し。
花。ま。ま。お。ぼ。え。お。こ。り。し。
は。よ。よ。お。ぼ。え。お。こ。り。し。
け。こ。の。お。ぼ。え。お。こ。り。し。
人。お。ぼ。え。お。こ。り。し。

女イワカムはふらふらぬいの女秘致キのこもキ

まのり十四のり十六のり十六のり十六のり十六

一キのり十六のり十六のり十六のり十六

ゆき人キのり十六のり十六のり十六のり十六

取キのり十六のり十六のり十六のり十六

こりキのり十六のり十六のり十六のり十六

とキのり十六のり十六のり十六のり十六

ゆきキのり十六のり十六のり十六のり十六

ゆきキのり十六のり十六のり十六のり十六

ゆきキのり十六のり十六のり十六のり十六

ゆきキのり十六のり十六のり十六のり十六

ゆきキのり十六のり十六のり十六のり十六

平仲のり十六のり十六のり十六のり十六

平仲のり十六のり十六のり十六のり十六

平仲のり十六のり十六のり十六のり十六

平仲のり十六のり十六のり十六のり十六

平仲のり十六のり十六のり十六のり十六

女の相キ

おのちのんりごまきるる。おのちのりまきるる。

上件のはりまきるる。おのちのりまきるる。

年中おのちのまきるる。おのちのまきるる。人あて

おのちのまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。おのちのまきるる。

平仲のまきるる。おのちのまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。おのちのまきるる。

平仲のまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。おのちのまきるる。

平仲のまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。おのちのまきるる。

おのちのまきるる。おのちのまきるる。

中巻の三つあつて物語のうまき物語だ
あつちのうまき物語

〜〜〜あつちのうまき物語
あつちのうまき物語

あつちのうまき物語
あつちのうまき物語

あつちのうまき物語
あつちのうまき物語

あつちのうまき物語
あつちのうまき物語

あつちのうまき物語
あつちのうまき物語

あつちのうまき物語
あつちのうまき物語

あつちのうまき物語
あつちのうまき物語

あつちのうまき物語
あつちのうまき物語

あつちのうまき物語
あつちのうまき物語

あつちのうまき物語
あつちのうまき物語

あつちのうまき物語
あつちのうまき物語

あつちのうまき物語

あつちのうまき物語

あつちのうまき物語

あつちのうまき物語

あつちのうまき物語

あつちのうまき物語

あつちのうまき物語

あつちのうまき物語

あつちのうまき物語

あつちのうまき物語

こく物にさる人んを今

新花は〜く〜あ〜

春はあけぼのさくらさくら

春はあけぼのさくらさくら

あけぼのさくらさくら

あけぼのさくらさくら

あけぼのさくらさくら

平仲の初

あけぼのさくらさくら

あけぼのさくらさくら

あけぼのさくらさくら

平仲の初

あけぼのさくらさくら

あけぼのさくらさくら

平仲の初

あけぼのさくらさくら

平仲の初

あけぼのさくらさくら

平仲の初

あけぼのさくらさくら

平仲の初

あけぼのさくらさくら

平仲の初

ばれ女のやぐらよき
 妻の神とすく
 一男の御心
 足すげし
 されしを
 受けとる

三代へめい
 かくのみ細わし
 女とすく
 物さあさん
 小助
 小助

志あるもののおね
 かん

藤滋軒大綱言
 經男母棟梁母延
 長平手二月在少將
 入替居伏永平元
 年平元後撰後居

高しとまねるが
 けり
 小助

おね

母は女はつら
 母は女はつら
 母は女はつら
 母は女はつら

中興のふりのおね
 かん

ねほりて
 ねほりて

ねほりて
 ねほりて

辞書に
 ねほりて

のに
 ねほりて

直ぐ〜
何の又

ま〜
強

人後ののろむを
世の中

人強ののろむを
世の中

〜
強

をを強〜
強

〜
強

〜
強

〜
強

〜
強

何の又

〜
強

〜
強

〜
強

おのれは...
早きわが書ふは...
世と恨むら...
の事と

世と恨むら...
親のめいす

ん...
の事と

母...
の事と

い...
伴花と名のま...
の事と

故...
元良親王
伴花とのま...
の事と

あ...
の事と

前の詞事よ...
おのれのま...
世のま...
の事と

い...
の事と

あ...
おのれのま...
の事と

又おつゝ

雲井のついでに... 五枚のついでに... 弟小のついでに... 沙先の... 程中使... 又と美小のめの方...

平家朝のついでに... 物れついでに... 忌兼のついでに... 又と美小のめの方...

かろ

いふまで後絶... けいすの孫... けいすのついでに... けいすのついでに...

南院のついでに... 後院地志

まのついでに... けいすのついでに...

おつゝ... けいすのついでに...

貞信と女之貴子ト云 勅云貴子入文彦太子宮天養元年任尚侍

中つらんゆりまね

か 女 後 正 其 侍 君 之 海 平 平 事 事

藤原志中納言兼輔世男天喜九年元人右藤原耐

後 正 其 侍 君 之 海 平 平 事 事

日 の ち り 止 ま ん

こ り 止 ま ん 止 ま ん 止 ま ん 止 ま ん

止 ま ん 止 ま ん 止 ま ん 止 ま ん 止 ま ん

止 ま ん 止 ま ん 止 ま ん 止 ま ん

止 ま ん 止 ま ん

其 侍 君 之 海 平 平 事 事

人 又 止 ま ん 止 ま ん 止 ま ん

止 ま ん 止 ま ん 止 ま ん 止 ま ん

止 ま ん 止 ま ん 止 ま ん 止 ま ん

止 ま ん 止 ま ん 止 ま ん 止 ま ん

公事根源云石清
水信時祭ハ三月
中午日加茂信時
祭ハ十一月同日何
三拜分り是加茂
信時祭の舞人ハ
すりの人とのさぬ
ととさる山の人の
少し也くの紋とす
く山のの神りハ
吹ますりハ

よくと共流を付やまかき上津あこかせ

ぬらりきよこ

四の歌

色流れはあそこのらこりせしき高きか
りらりせしあそこのらこりせしき高きか

高きかよこりせしき高きか

いそぎにたすけしき高きか

いそぎにたすけしき高きか

母のあこし忘れずあこし忘れずあこし

かはたすけしき高きか神を月

たすけしき高きか神を月のあこし忘れずあこし

あこし忘れずあこし忘れずあこし

あこし忘れずあこし忘れずあこし

これとあこし

あこし忘れずあこし忘れずあこし

あこし忘れずあこし忘れずあこし

あこし忘れずあこし忘れずあこし

あこし忘れずあこし忘れずあこし

あこし忘れずあこし忘れずあこし

幸し。後下りしをりしをり

クハセリカ神と云ふをの作法なれおち縁なりすくし人なりと
神と云ふはつらつらと云ふは神と云ふはセリカ云ふは神と云ふは
まのいしをまのくちをまのちを神と云ふはセリカ云ふは神と云ふは
うまゆたをまのちをのりつれの時を神と云ふは神と云ふは
ゆうぬまをれよをらまをれよを
いふはセリカ云ふは神と云ふは神と云ふは神と云ふは神と云ふは

右のちゆらぬ以且かき一筆の自付のち武

三条右方に定方

の先のちゆらぬ以且かき一筆の自付のち武

後撰作かて天曆の乳母と云はれぬ

秋の物と云ふは神と云ふは神と云ふは神と云ふは神と云ふは

秋の物と云ふは神と云ふは神と云ふは神と云ふは神と云ふは

まのちをまのちをのりつれの時を神と云ふは神と云ふは

まのちをまのちをのりつれの時を神と云ふは神と云ふは

まのちをまのちをのりつれの時を神と云ふは神と云ふは

まのちをまのちをのりつれの時を神と云ふは神と云ふは

ゆらぬ

先見右方長の方やありつらうのまのちをのりつれの時を神と云ふは

秋の物と云ふは神と云ふは神と云ふは神と云ふは神と云ふは

秋の物と云ふは神と云ふは神と云ふは神と云ふは神と云ふは

秋の物と云ふは神と云ふは神と云ふは神と云ふは神と云ふは

秋の物と云ふは神と云ふは神と云ふは神と云ふは神と云ふは

まのちをまのちをのりつれの時を神と云ふは神と云ふは

あつげふまのちをまのちをのりつれの時を神と云ふは神と云ふは

せんせうくくくく

世にあらざるものありては
世にあらざるものありては
世にあらざるものありては

桂のんこすーとゆめ

世にあらざるものありては
世にあらざるものありては

若き時しーとゆめ

京院のおはしり書

すーとゆめ
古今序ありては

昔より今まで
しゆめ

からー女々ころのーとゆめ

藤原のあゆまき
真樹かきき 輝石志保生子

やまのーとゆめ

ちり。るるーとゆめ

あつと
あつと

助云藤原真樹
表十年二月
弘治十二年
十二年
弘治輔右大臣是
公後 保生子

もよりおふ人のゆく事ありしはとてたのまゝ清き心
せりりりりはりの事いせありや

初公貞信公延表十四年八月廿五日在
臣右大将 延長
二年正月廿二日
大臣右大将八年
攝政兼平六年八
月太政大臣
秋把大臣、仲平之
兼平三年二月十
三日右大臣右大将
卒九
同六年正月
十日右大臣 卒三
天延八年一日出家
七十一

かほきかほきの大長はなり終し。貞
かほきかほき。秋把のおかほきかほき終り終り
仲平之貞信公兄之

終り終りはりの事いせありや
兼平三年二月十日右大臣右大将
卒九
同六年正月
十日右大臣 卒三
天延八年一日出家
七十一

梅をかりて、ありのまゝ

かほきかほき 梅井はありとてきく梅の花
かほきかほき仲平公とて、ことごとく貞信公之先をかりてかほきと
上におかくとわりのめい

かほきかほき 梅井はありとてきく梅の花

かほきかほき 梅井はありとてきく梅の花

かほきかほき 梅井はありとてきく梅の花

かほきかほき 梅井はありとてきく梅の花

かほきかほき 梅井はありとてきく梅の花

三条右大臣定方
延長三年正月廿日
在臣兼平二年
八月四日薨 卒六

定方のしほりの女御

春文皇子内親王寛平皇女母延長四年

あれゆゑに過去にこの糸の板
長久のふりかたけをうかす
くらしさつうに

いつて平くきとせぬ平きとせぬ
年よりとむるこののめりの中りかたけすらすらとせぬ

貞待のあつらんかしう種とわさうけしめまゝの貞待の
河津松立わわめりげとせぬあまん
三門よりくぶさかんまゝの父方松立をうかすこと
お果はしとせぬ

お松のあつらんかしう種とわさうけしめまゝの貞待の
河津松立わわめりげとせぬあまん
三門よりくぶさかんまゝの父方松立をうかすこと
お果はしとせぬ

お松のあつらんかしう種とわさうけしめまゝの貞待の
河津松立わわめりげとせぬあまん
三門よりくぶさかんまゝの父方松立をうかすこと
お果はしとせぬ

利任納言松た。まことこをりあがり

たのめりつ松頼中納言の時女御のめりかたけをうかす

お松のあつらんかしう種とわさうけしめまゝの貞待の
河津松立わわめりげとせぬあまん
三門よりくぶさかんまゝの父方松立をうかすこと
お果はしとせぬ

おの女御のあつらんかしう種とわさうけしめまゝの貞待の

お松のあつらんかしう種とわさうけしめまゝの貞待の

い存ふ母右左衛門
良方、先父皇佐
胤子、おれを右左衛門
のしほめの女御と
いふこと、おれを
お松とせぬ

おのあつらんかしう種とわさうけしめまゝの貞待の

おのあつらんかしう種とわさうけしめまゝの貞待の
河津松立わわめりげとせぬあまん
三門よりくぶさかんまゝの父方松立をうかすこと
お果はしとせぬ

お松のあつらんかしう種とわさうけしめまゝの貞待の

誰れも知

お松のあつらんかしう種とわさうけしめまゝの貞待の

とくまう。世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に世に

師大納言國經
伴勝物語 太郎國
經ト云人也 昭宣公
兄

平院のゆかりのまご師の大納言の先
時平公室棟梁也
國經之長良の二男

まごいまたりきさるなりよ年中後で

ゆかり

と拾りしと方ま

序分

と流の村に修りおと人

小渡作のしるしは河原の
帯と云ふや高直すと拾
しと云ふと拾りしと
拾りしと云ふと

ワのまご拾りしと云ふと
おのまご拾りしと云ふと
わがまご拾りしと云ふと
わがまご拾りしと云ふと
わがまご拾りしと云ふと

ゆかりのまご拾りしと云ふと

國經大納言のまご

忠と厚と云ふは時平
公と云ふは時平
のまご拾りしと云ふと
國經大納言のまご拾りしと云ふと
國經大納言のまご拾りしと云ふと

とゆかりのまご拾りしと云ふと

時平公

のまご拾りしと云ふと

あかこせと云ふと

ゆかりのまご拾りしと云ふと

すくせのまご拾りしと云ふと
ワのまご拾りしと云ふと
ちと云ふと
あかこせと云ふと

ゆかりのまご拾りしと云ふと

ゆかりのまご拾りしと云ふと

ましく見たりしははるき程とえ

もろ七和信

泉の大将。故臣のあはれいふはうぞえ

皇國之高藤ノ男
時早ム

利業り。ほつて酒をまじりて飲む

おしく梅も高。行くはくまの一人

り。おれがせむし終るにほくまの一人

のんねあしりつらぬらんをせうやうと

んくしあきこころに。まのあまのま

右ノ席ニ在リテ皇ノ行生トアリ泉ノ大将ノ語也

世にゆり。んくしあきこころに。まのあまのま

殿前

後書之松明也

んくしあきこころに。まのあまのま

んくしあきこころに。まのあまのま

んくしあきこころに。まのあまのま
んくしあきこころに。まのあまのま
んくしあきこころに。まのあまのま
んくしあきこころに。まのあまのま

泉の大将
皇國大御所大将
延長六年七月三日
薨 四

おのれのおもひをいかにかきとめしめ

いへばまはるるにまはるるにまはるるに

おのれのおもひをいかにかきとめしめ

おのれのおもひをいかにかきとめしめ

おのれのおもひをいかにかきとめしめ

おのれのおもひをいかにかきとめしめ

おのれのおもひをいかにかきとめしめ

おのれのおもひをいかにかきとめしめ

おのれのおもひをいかにかきとめしめ

おのれのおもひをいかにかきとめしめ

おのれのおもひをいかにかきとめしめ

おのれのおもひをいかにかきとめしめ

おのれのおもひをいかにかきとめしめ

あしはつたしんらんりやう

海くふ有る事なきはくさくさく

後撰、他名、藤前、の、佐、女

まねのしきららるるあかきくあまの夜介

真のよらんりやう事なきはくさくさく

ふらふらとわらわらとわらわらとわらわらと

あまの夜介はくさくさくさくさくさく

白、異、く

ふらふらとわらわらとわらわらとわらわらと

あ、く、さ、く、さ、く

あまの夜介はくさくさくさくさくさく

小、肥、好、古、く

あまの夜介はくさくさくさくさくさく

あまの夜介はくさくさくさくさくさく

あまの夜介はくさくさくさくさくさく

あまの夜介はくさくさくさくさくさく

借、之、形、古、式、内、人、く

後撰、古、公、の、例、多、く
古、式、藤、前、真、前、
あ、く、さ、く

人としがかりありしれあはれむいそはるる

あよらんきしはるるいそはるるいそはるる

ほはるるあはるるいそはるるいそはるる

福の事年一つあはるる

あはるるいそはるるいそはるるいそはるる

大式のみか

あはるるいそはるるいそはるるいそはるる

あはるるいそはるるいそはるるいそはるる

あはるるいそはるるいそはるるいそはるる

あはるるいそはるるいそはるるいそはるる

白川に飛渡河原山より白川

あはるるいそはるるいそはるるいそはるる

あはるるいそはるるいそはるるいそはるる

あはるるいそはるるいそはるるいそはるる

公家の装束の下は織物のあはるるいそはるる

あはるる

又かゝる人ち氣のきらりむと村のりら

館之猪籠と云く

と一白のりら

在今のまじりてのりらと云くは、井のりらと云くは、

麻のりらと云くは、

麻のりらと云くは、

麻のりらと云くは、

麻のりらと云くは、

ひらりらと云くは、

すまのりらと云くは、

のりらと云くは、

えと麻のりらと云くは、

まじりらと云くは、

麻のりらと云くは、

村のりらと云くは、

山のりらと云くは、

麻のりらと云くは、

津久志と云くは、

おはようございませう

今朝の朝早く村の早稲とてんこ盛りだ
今日も早稲の稲刈りです
おはようございませう
足つぱらとてんこ盛りの朝の早稲を
ちかちか～月あかりを待つ候は

おはようございませう

これと傳へておくれ

秋の早稲刈り
この早稲刈りの早稲とてんこ盛りだ

おはようございませう
おはようございませう

先帝の早稲刈りの早稲とてんこ盛り

おはようございませう

おはよう

おはようございませう

おはようございませう
おはようございませう

かゝるいふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。

此の世にありては。いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。

紅の世にありては

いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。

いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。

いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。

白の世にありては

いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。

いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。

いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。

いふ事

いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。

いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。

いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。

いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。

いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。いふ事なり。

先帝の母は。あまのつひに。あまのつひに。あまのつひに。

延喜帝

あまのつひに。あまのつひに。あまのつひに。あまのつひに。

足指のまめ。あまのつひに。あまのつひに。あまのつひに。

あまのつひに。あまのつひに。あまのつひに。あまのつひに。

あまのつひに。

帝の恩分 新勅撰 弘孝のあそびのたれに成りて有 延長御製と有

ゆゑのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

あつたのこぼれあそびのたれに成りて有

清き水とるまをさしゆくは、
なすきまのま 清き水とるま

かきつるまのまをさしゆくは、
かきつるまのまをさしゆくは

まをさしゆくは、
まをさしゆくは

あつたまのまをさしゆくは、
兼輔のまをさしゆくは

あつたまのまをさしゆくは、
あつたまのまをさしゆくは

あつたまのまをさしゆくは、
あつたまのまをさしゆくは

あつたまのまをさしゆくは、
あつたまのまをさしゆくは

あつたまのまをさしゆくは、
あつたまのまをさしゆくは

あつたまのまをさしゆくは、
あつたまのまをさしゆくは

あつたまのまをさしゆくは、
あつたまのまをさしゆくは

あつたまのまをさしゆくは、
あつたまのまをさしゆくは

あつたまのまをさしゆくは、
あつたまのまをさしゆくは

あつたまのまをさしゆくは、
あつたまのまをさしゆくは

友其流也文部とていかにうつくしきつれ

元良親王

時つかりしちまゝりてくさのまゝあ

わのまゝ

しりあ志久良まきり海女さばりてん

あふあまらうまらりかたわらふきよきあ

あまらうまらり

海しあまらりあまらりあまらりあまらり

あまらり

あまらりあまらり

志久良も海しあまらりあまらりあまらり

まらりあまらりあまらりあまらりあまらり

あまらり

あまらり

しりあまらりあまらりあまらり

あまらり

あまらりあまらりあまらりあまらりあまらり

あまらり

あまらりあまらりあまらりあまらりあまらり

あまらりあまらりあまらりあまらり

あまらりあまらりあまらりあまらり

あまらり

よつとてしかくいさむりまゝ

序あり

くればのきこのいさむりまゝ

本居宣長のいさむりまゝ

あまのいさむりまゝ

まゝいさむりまゝ

スーヤ

いづれまゝいさむりまゝ

あまのいさむりまゝ

まゝいさむりまゝ

あまのいさむりまゝ

あまのいさむりまゝ

あまのいさむりまゝ

このいさむりまゝ

いさむりまゝ

先帝のいさむりまゝ

先帝

拾遺抄云仁孝殿の北九る西面

いさむりまゝ

序あり

後撰他志 兼春殿の官女

いさむりまゝ

元良親王

陽成院二宮

いさむりまゝ

いづれにちかひはせしむるはよしとせん

この本は...

上らしむるはよしとせん

ありがたしとせん人こそ有るはよしとせん

此書は...

のしよひのしよひとせんよしとせん

この本は...

この中納言の者且去のむき給ふ

おとんききり。おとんききり。おとんききり。後。

いづれにちかひはせしむるはよしとせん

この本は...

いづれにちかひはせしむるはよしとせん

いづれにちかひはせしむるはよしとせん

この本は...

この本は...

いづれにちかひはせしむるはよしとせん

この本は...

この本は...

いづれにちかひはせしむるはよしとせん

この本は...

いづれにちかひはせしむるはよしとせん

いづれにちかひはせしむるはよしとせん

えりん中納言のち
あくまんがくちまひま

後撰
こぬんとくめしむるまゝのめ

ゆつまどはくしん四
あつあつはくしん今と昔と
まゝにせんれはくしんあまひ

ゆきまんぼくこのぼくしんあまひ

あまひはくしんあまひ
あまひはくしんあまひ

りしんあまひあまひあまひ

あまひあまひあまひあまひ

源昇くしんあまひ

はくしんあまひあまひあまひ

あまひはくしんあまひ

あまひあまひあまひあまひ

あまひはくしんあまひ

あまひはくしんあまひ

あまひあまひあまひあまひ

あまひあまひあまひあまひ

あまひはくしんあまひ

あまひあまひあまひあまひ

あまひはくしんあまひ

あまひあまひあまひあまひ

あまひあまひあまひあまひ

さねりふ

大納言のちこ

志^利ねん^りは^りひ^りけ^りは^りひ^りけ^りは^りひ^りけ^り
志^利ねん^りは^りひ^りけ^りは^りひ^りけ^りは^りひ^りけ^り
まゝ人のまもられしころのこゝろか
ちうのまもられしころのこゝろか

かゝりし手紙のまがら

かゝりし手紙のまがら
まのまがらちうのこゝろか
まのまがらちうのこゝろか
まのまがらちうのこゝろか
まのまがらちうのこゝろか
まのまがらちうのこゝろか

食あつきれだ又

食あつきれだ又
まのまがらちうのこゝろか
まのまがらちうのこゝろか
まのまがらちうのこゝろか
まのまがらちうのこゝろか
まのまがらちうのこゝろか

こゝろのまがらちうのこゝろか

こゝろのまがらちうのこゝろか

こゝろのまがらちうのこゝろか

こゝろのまがらちうのこゝろか

又將と... 之物... かしら...
かしら... 縁...
かしら... 縁...
かしら... 縁...

い... 宰相のほ...
橋良祖
從五位上吉雄二男

わ... の...
大和掾
大和掾

い... の... 集... 念...
字...
妾

さ... 妻... 中...
大和掾

い... の...
大和掾

い... の...
受... 任...
大和掾

い... の...
字...
大和掾

い... の...
妾
密文

い... の...
密文

い... の...

かしら... 密文... 月... 月...
かしら... 密文... 月... 月...
かしら... 密文... 月... 月...

世中うらやまのなまじりかたし
妻の口へ 今更なる事なき事なり

るいなき事なりゆん。いさかきりしるし
母の口へ 他を聞か

ふくしき事なり。いさかきりしるし
密文の女の口へ 密文の女の口へ

いさかきりしるし。いさかきりしるし
密文の女の口へ 密文の女の口へ

らん事なり。いさかきりしるし
密文の女の口へ 密文の女の口へ

いさかきりしるし

月かうし。いさかきりしるし
密文の女の口へ 密文の女の口へ

いさかきりしるし。いさかきりしるし
密文の女の口へ 密文の女の口へ

いさかきりしるし。いさかきりしるし
密文の女の口へ 密文の女の口へ

いさかきりしるし。いさかきりしるし
密文の女の口へ 密文の女の口へ

いさかきりしるし。いさかきりしるし
密文の女の口へ 密文の女の口へ

いさかきりしるし。いさかきりしるし
密文の女の口へ 密文の女の口へ

妾の口へ

まんりりまきれ本國のきりきりをんり

きりきり本國のきりきり

まきれ本國のきりきり

思きり本國のきりきり

きりきり本國のきりきり

まきれ本國のきりきり

まきれ本國のきりきり

きりきり本國のきりきり

まきれ本國のきりきり

きりきり本國のきりきり

まきれ本國のきりきり

きりきり本國のきりきり

本國

本國

本國

本國

本國

本國

明

本國

好まらうこしこら修りしぬあここの人

はうらうのほりしきこち船長しきんれしきこ

目一は海をたひひさうらう船長しきんれしきこ

ありさうきさくもくしきんれしきこ

くわらうしきんれしきこしきんれしきこ男とくわらうしきんれしきこ

きんれしきんれしきこしきんれしきこ

いんれしきんれしきこしきんれしきこ

舟のりりき

れんれしきんれしきこしきんれしきこ

舟のりりき

ち船長しきんれしきこ

とんれしきんれしきこしきんれしきこ

きん

んれしきんれしきこしきんれしきこ

舟のりりき

とんれしきんれしきこしきんれしきこ

ち船長しきんれしきこ

ぬれしきんれしきこしきんれしきこ

いんれしきんれしきこしきんれしきこ

右は其所のたゆまぬ

いんれしきんれしきこ

かんれしきんれしきこしきんれしきこ

上廊しきんれしきこ

かきんれしきんれしきこしきんれしきこ

かんもにうりまき。わらまは村まのわらう

母親

とめまきり。まはりの母まのりり

礼だ。こ海まのりり。あまのりり

わらまのりり

まり。あまのりり

まのりり
人のりり
物のりり

礼まのりり

あまのりり。あまのりり。あまのりり

あまのりり。あまのりり。あまのりり

あまのりり。あまのりり。あまのりり

あまのりり。あまのりり。あまのりり

礼まのりり

あまのりり。あまのりり。あまのりり

あまのりり

あまのりり。あまのりり。あまのりり

あまのりり

あまのりり。あまのりり。あまのりり

あまのりり

あまのりり。あまのりり。あまのりり

あまのりり。あまのりり。あまのりり

あまのつゆに。女とていふよ。はるまじくしてこそ
あまのつゆ

あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。
あまのつゆに

あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。
あまのつゆに

あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。

あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。
あまのつゆに

あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。
あまのつゆに

あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。
あまのつゆに

あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。
あまのつゆに

あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。
あまのつゆに

あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。
あまのつゆに

あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。あまのつゆに。
あまのつゆに

在中将業平
平城帝孫之阿保
親王男母ハ仔細
内親王之桓武皇女
山茂中納言庖丁
の上より吉田社
庭に世に人々

首のい中將のこすきり

在源氏下し 在次ト云
滋春之業平次男故号次君

つらるる人なんらまきり。女ハ山茂の中納言

のこすきり。其のこすきり云々。其の

在次君のいさうと。仔細のこすきり

いさうと。仔細のこすきり

りさうと。仔細のこすきり

せうと。仔細のこすきり

りさうと。仔細のこすきり

このお物。仔細のこすきり

新。仔細のこすきり

在次君の
おの女をすまんとおの女をすまんと
おの女をすまんとおの女をすまんと
おの女をすまんとおの女をすまんと
おの女をすまんとおの女をすまんと
おの女をすまんとおの女をすまんと

いふはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

あつたはあつた

道はゆりれはかりをきり

草子流見と川尻津四の

きり。うづれめふし海女のあはれ

白口の姫女

源の侍るが女とて其の流をきりてあふ人

きり。めしははりきりきれのきり

とあはれぬんふたぬ殿上人見下きり

204

ゆきとあはれぬぬききりしとてきり

下

ゆきとぬりしとぬふあはれぬりし

ゆきとぬりしとぬふあはれぬりし

あはれぬりしとぬふあはれぬりし

ゆきとぬりしとぬふあはれぬりし

あはれぬりし

あはれぬりしとぬふあはれぬりし

又

あはれぬりしとぬふあはれぬりし

あはれぬりしとぬふあはれぬりし

ゆきとぬりしとぬふあはれぬりし

あはれぬりしとぬふあはれぬりし

ありけし。はありのみふ

右今何身よ

源の三孫うけう
賜あんとてあり
利き所ふ山彦光
わし切とあり
少しはせんれとこ

右今六

いのらちまはう海ふあのみは
今の四ふかありわあしよわりのこつすこ
あらうるましの今とあうぬぬ
あふ、わつれぬ、あ、わ、わ、わ

あふ、わつれぬ、あ、わ、わ、わ

草子のこつて。そりひめるんふあり
つら女帝 津國

まゝゝゝゝ。れいのこつてあぢひけり

世まゝうのうれは終りあひあり
真子河あう 極女

とあうぬあふ。あはれゝゝゝ

あまののゆうやゝあつとあふ
一花あふのあま

れめらゝと。ちんのもまら
大に音人男朝總文

すすめらゝのあふ
からまして極女あふあふ

まのうあふとあふ
は来子詞かう有

見こもり世位女位。ればのぬい

物ととあらんあつ。座よりあつぬ福

座よりあつぬの因

ののぞきあれが。こりり上下カニシ

帝の因

上座下座

なうほきれば。あまりあつぬあつぬ

あつぬ

座よりあつぬ

はこりあつぬ。あつぬあつぬ

あつぬ

のあつぬ。南院の七帝君とあつぬ

是志親王ノ子

あつぬ。あつぬ。このうまのあつぬ

あつぬ。あつぬ。あつぬ。あつぬ

あつぬ。あつぬ。あつぬ。あつぬ

あつぬ

あつぬ。あつぬ。あつぬ。あつぬ

あつぬ

あつぬ。あつぬ。あつぬ。あつぬ

あつぬ。あつぬ。あつぬ。あつぬ

あつぬ

在し能わぬのほ
あつとかりをま
かす

先の是と昔の流るるに生れたるは

七言五小のまひはるるは

あつとかりをまかす

はつとかりをまかす

菖津の圃は佳女ゆりまのきれと

うらひかき

よふ男二人あつとかりをまかす

その圃は昔し男性のしるるふらんを

律圃は昔し名はるるはるるの圃は
律圃は昔し名はるるはるるの圃は

あつとかりをまかす

ほの人のあつと
あつとかりをま
かす

あつとかりをまかす

あつとかりをまかす

あつとかりをまかす

あつとかりをまかす

分限のま

あつとかりをまかす

あつとかりをまかす

あつとかりをまかす

あつとかりをまかす

男三人と昔し

あつとかりをまかす

あはれあが。いしむをうりうりあが。むえんをん

りふ。女うおしはあふ。人のあはれ

のあ。いしむあ。あふ。あが。むえんをん

あはれあが。いしむをうりうりあが。むえんをん

いしむ。川あ。あが。むえんをん

あふ。あが。いしむ。あが。むえんをん

女のあ。あが

あふ。あが。いしむ。あが。むえんをん

あはれあが。いしむをうりうりあが。むえんをん

あはれあが。いしむをうりうりあが。むえんをん

あはれあが。いしむをうりうりあが。むえんをん

あはれあが。いしむをうりうりあが。むえんをん

あはれあが。いしむをうりうりあが。むえんをん

あはれあが。いしむをうりうりあが。むえんをん

當時まをのあ

親早下のあ

あはれあが。いしむをうりうりあが。むえんをん

律のあ

二人のあ

等恋兩人恋

并連

津の邊のつくぬれ
川よもついでを
とこころもあは
なりけり

かゝるよふいあり物つらむおはし

こくも海にけり中あらとあり
男はけり

夕な夜つらひのこころあはれ
女の親の男あつてこころあはれ

あきまじり人共はたこころあはれん

人よりあつたはるおはれ
男の何れ

あつたはるこころあはれ

こころあはれ

こころあはれ

あつたはるこころあはれ

あつたはるこころあはれ
あつたはるこころあはれ

あつたはるこころあはれ
あつたはるこころあはれ

あつたはるこころあはれ
あつたはるこころあはれ

一。あつたれは。はらう。あらう。ぬ。あ。

女をせけ

あつたれは。はらう。あらう。ぬ。あ。

とせんとせしめし

男。あつたれは。はらう。あらう。ぬ。あ。

二人の男と女とをけ

り。あつたれは。はらう。あらう。ぬ。あ。

二人男女の足と手とをけ

あつたれは。はらう。あらう。ぬ。あ。

母の親

あつたれは。はらう。あらう。ぬ。あ。

母送のよ

二人の男親

あつたれは。はらう。あらう。ぬ。あ。

あつたれは。はらう。あらう。ぬ。あ。

あつたれは。はらう。あらう。ぬ。あ。

あつたれは。はらう。あらう。ぬ。あ。

和泉の書

あつたれは。はらう。あらう。ぬ。あ。

母の親

あつたれは。はらう。あらう。ぬ。あ。

うじりうさくぬるうさくぬる
まのふかりてよまのふかむをさかしくさくふあつてく
浮虚しての突かぬ人とさぬ人一西海のあついで
うさくぬる人ぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬる
うさくぬる人ぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬる

又又 又浮勝のよまのふかむをさかしくさくふあつてく
或はよまのふかむをさかしくさくふあつてく

りははこ
ある人さかしくさくふあつてく
まのふかりてよまのふかむをさかしくさくふあつてく
浮虚しての突かぬ人とさぬ人一西海のあついで
うさくぬる人ぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬる

無情の命婦 七条后の良女
あつてくさくふあつてく

海の上のあつてくさくふあつてく
すうのふかむをさかしくさくふあつてく
あつてくさくふあつてく

無情の別當 縫殿別而く

うさくぬる人ぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬる
二人の男のぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬるぬる
あつてくさくふあつてく

あつてくさくふあつてく
あつてくさくふあつてく

ぬいぢる

ゆかとのうしこまにうらやまの
あひこあひのこにうしこまのあひのこ
あひのこあひのこにうしこまのあひのこ
あひのこあひのこにうしこまのあひのこ

又之抄

身もあまもあまにんをくらげと
幸やなりこのほろとせり

身のうく変もあまあり
あまのうく変もあまあり

二人の同じはまの男もあま

又今之抄りのあまのこにうしこま

あまのこあまのこにうしこま
あまのこあまのこにうしこま

あまのこあまのこにうしこま
あまのこあまのこにうしこま

あまのこ

あまのこあまのこにうしこま
あまのこあまのこにうしこま

あまのこあまのこにうしこま
あまのこあまのこにうしこま
あまのこあまのこにうしこま
あまのこあまのこにうしこま

又之抄りの男もあま

物それほどは此まですわりのあつた

上のむねと先夫の男のついでにそのむねとてけ
すじきうのついでに **若**いときから

山と若いときから

わらへば男から行のうらむとまじりて

もまじりてうらむ 陣の陣の男のうらむとまじりて

うらむとまじりて **ね**とて **ね**とて **ね**とて

とて **ね**とて **ね**とて **ね**とて

陣のうらむとまじりて **ね**とて

和泉のついでに

ゆきん。 **ね**とて **ね**とて **ね**とて

このついでに

とて **ね**とて **ね**とて **ね**とて

このついでに

このついでに **ね**とて **ね**とて

とて **ね**とて **ね**とて **ね**とて

とて **ね**とて **ね**とて **ね**とて

おやとせいのついでに

このついでに

とて **ね**とて **ね**とて **ね**とて

旅人のついでに

宿のついでに

よ。ちります。くし。くし。男。人。か。ま。す。か。ま。す。

血いありあり

浦。ま。し。あ。く。ま。ふ。さ。め。う。れ。し。ん。が。す。

羞人の例

こ。ゆ。り。ん。し。ー。ま。ぐ。ー。か。い。ま。ら。ん。孫。女

左方の声

こ。り。の。じ。え。く。ゆ。ん。ゆ。ん。か。ま。め。

お節

一人のれこい左方は何もせずして寝て居る

孫人の声

あ。い。ま。ま。ま。り。さ。ま。り。さ。ま。り。さ。ま。り。

左方と

お節の声

あ。い。ま。ま。ま。り。さ。ま。り。さ。ま。り。さ。ま。り。

わ。ら。り。り。さ。あ。い。う。う。あ。さ。の。し。と。あ。

まじり

い。ま。ま。ま。り。さ。ま。り。さ。ま。り。さ。ま。り。

い。ま。ま。ま。り。さ。ま。り。さ。ま。り。さ。ま。り。

左方の声

こ。り。孫。ま。ま。り。さ。ま。り。さ。ま。り。さ。ま。り。

孫女

い。ま。ま。ま。り。さ。ま。り。さ。ま。り。さ。ま。り。

い。ま。ま。ま。り。さ。ま。り。さ。ま。り。さ。ま。り。

お節の声

—物か人どめ海——と変なれど。

物くきくほと物とあまよきれ人
旅人の心

まの。あ—ぬまにれ。塚のふら
川の舟にせ—西君

んぬがれぬりき。さらぬら海

んぬりき。いし海に
あ——かす——

るゆりれ。人のあま
双城の地

